実践団体・プラン基本情報

実践団体の基本情報

記入日	西暦 2025 年 1 月 17 日（2024 年度のチャレンジプラン）
プラン名	「ちょうふ防災スクラム」 ～フェーズフリーの防災教育の展開、災害時のスマートでスムーズな福祉避難所の開設、および公的機関・民間・市民の立場を超えた地域ネットワークの強化～
実践団体名	リソース・ネット委員会／ちょうふ災害福祉ネットワーク
代表者名	水戸和幸
電話番号	090-9377-5945
メールアドレス	k.mito@uec.ac.jp
実践団体の説明	リソース・ネット委員会は、2009 年 10 月に都立調布特別支援学校と電気通信大学との間で教育連携協定を締結した際に仕組みづくり検討委員会を経て、設立された。東京都立調布特別支援学校の児童・生徒が安全で豊かな学校生活を送ることができるよう支援するとともに、共生社会の実現に向けて、教育ニーズと地域社会のリソースの発見、関係機関との連絡調整を図る取り組みを展開している。これまで、定例会、障がい者理解に向けた公開講座、余暇活動支援、防災活動、などを実施してきた。会員は、調布特別支援学校教職員、保護者、電気通信大学教職員、学生、地域住民など約 40 名である。 ちょうふ災害福祉ネットワークは、東京都調布市内の民間福祉団体がネットワークを結ぶことで、災害時に協働で障害者を支援する団体として 2023 年 7 月設立された。加盟団体数は 28 事業所（放課後等デイサービス、福祉作業所、グループホーム、児童発達支援）であり、定例会、防災訓練、学習会・講演会を通じて、有事の際に福祉作業所等を利用できる体制をつくろうとしている。

所属メンバー	○リソース・ネット委員会：水戸和幸（代表・電気通信大学教授）、五十嵐賢太郎（電気通信大学・総務企画課課長補佐）、養老毅暁（電気通信大学・卒業生）、中村由美子（調布特別支援学校・校長）、久保田聡（調布特別支援学校・副校長）、小川琢也（調布特別支援学校 PTA 会長）、小幡文博（調布特別支援学校 PTA 総務）、平林、濱田、小坂、中本（以上、調布特別支援学校 PTA）、清水、成田、里見、北沢（以上、調布特別支援学校卒業生保護者）、坊野美代子（元調布特別支援学校長）、中川昇（調布市総務部副参事（防災担当）兼調布市総合防災安全課長）、原田勝（調布市教育委員会教育部指導室副主幹／元東京都立調布特別支援学校長）、常松浩三郎（調布市立調布中学校主幹教諭／元東京都立調布特別支援学校主幹教諭）、三浦、金子、浅見、佐藤（以上、調布市社会福祉協議会）、茂木、大釜、金澤（以上、近隣マンション住民）、梶原、山田（以上、調布市第一小学校地区協議会）、山本（東京学芸大学大学院学生） ○ちょうふ災害福祉ネットワーク：大澤宏章（代表・大澤宏章（NPO 法人羽ばたく会 めじろ作業所 施設長）、嶋田浩一（NOP 法人ちょうふの風 施設長）
活動の本拠地	東京都調布市
活動開始時期・結成時期	2024 年 4 月
過去の活動履歴・受賞歴	主な活動を記載します 2013 年　知的障がい児の余暇活動促進及び日常生活を根付かせるための活動（調布市社会福祉協議会助成活動） 2014 年～2018 年　東京都放課後子供教室推進事業

プランの基本情報

プランでの実践主体	1. 学校・教育関係　3. 保護者・ＰＴＡ　4. 地域組織 5. 国･地方公共団体、8. ボランティア、9. ＮＰＯ
プランの運営側の人数（実数）	約 30 人
プランの活動地域	東京都調布市

プランの防災教育の対象者	10．教職員・保育士等、11．保護者・PTA　12．地域住民 15．障がい者　16．支援学校等児童生徒　19．防災関係者 21．その他（具体的に：福祉施設関係者　）
防災教育の対象者の人数（実数）	約 130 人
プランが対象とする災害	1．地震　3．風水害
プランの活動目的	1．防災意識を高める　2．災害を想定した訓練　3．防災に関する知識を深める　6．災害に強い地域をつくる　7．災害対応能力の育成　8．防災に役立つ資料・材料づくり
対象者が身につく知識・技能等	3．災害時に発生する課題・影響　6．平時に行う被害を出さないための備え　7．災害発生時に身の安全を確保するための行動　8．災害対応・復旧・復興時の立ち直りに向けた助け合い
プランの活動形態	3．講演会・シンポジウム 13．避難・防災訓練 17．その他（具体的に：　　）
プランでの連携先	1．学校・教育関係　3．保護者・ＰＴＡ　4．町会・自治会 7．それ以外の地域組織　8．国・地方公共団体 12．ＮＰＯ　17．その他（具体的に：福祉団体　）
実践にかかった金額	30 万円未満

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
４月	計画立案・会合	・ぼうさいこくたい 2024 への応募に向けた検討	・調布特別支援学校ＰＴＡの防災への意識調査（2024 年 3 月から継続）
５月	計画立案・会合	・ぼうさいこくたい 2024 への応募に向けた検討	・リソース・ネットの定例会を開催し、ぼうさいこくたい 2024 への応募 ・調布特別支援学校ＰＴＡの防災への意識調査の結果報告と意見交換を実施

6 月	計画立案・会合	・調布特別支援学校の年間防災訓練での協力体制の検討	・調布特別支援学校の防災訓練における地域との連携体制について確認
7 月	計画立案・会合	・リソース・ネットとちょうふ災害福祉ネットワークとの意見交換に向けた準備	
8 月	会合		・ちょうふ災害福祉ネットワーク総会でリソース・ネットと民間福祉団体間で意見交換
9 月	会合	・調布特別支援学校の余暇活動（軽スポーツ）の準備	・余暇活動（軽スポーツ）の日程確認と協力者の募集
10 月		・調布特別支援学校の異臭による避難訓練の準備 ・調布特別支援学校の余暇活動（軽スポーツ）の準備 ・調布特別支援学校の 1 泊 2 日宿泊防災訓練の準備	・異臭による避難訓練の実施 ・余暇活動の実施（1 回） ・宿泊防災訓練での非常食作りの実施
11 月	会合	・調布特別支援学校の余暇活動（軽スポーツ）の準備 ・ぼうさいこくたい 2024 出展準備 ・民間の福祉避難所開設に向けた検討	・余暇活動の実施（2 回） ・ぼうさいこくたい 2024 出展（S38）
12 月	会合	・民間の福祉避難所開設に向けた検討	・放課後等デイサービスの見学と意見交換の実施
1 月	会合	・民間の福祉避難所開設に向けた検討	・放課後等デイサービスの避難訓練への参加と意見交換
2 月	会合	・民間の福祉避難所開設に向けた検討	・放課後等デイサービスの避難訓練への参加と意見交換 ・災害時要配慮支援者研修会

			（主催：岩手県一関市、共済：岩手県立大学防災復興支援センター）での講演
３月	会合（次年度に向けた）	・民間の福祉避難所開設に向けた検討	・放課後等デイサービスの避難訓練への参加、福祉作業所の見学と意見交換（予定）

実践したプランの内容

プラン全体の概要	本プランの目的は、フェーズフリーの防災教育の展開、災害時のスマートでスムーズな福祉避難所の開設、および公的機関・民間・市民の立場を超えた地域ネットワークの強化である。そのために、調布特別支援学校が実施する防災訓練のみならず、余暇活動などにも地域住民が積極的に参画するとともに、教職員、保護者、地域住民、行政機関、福祉団体が集まった防災連携を含む会合を定期的に行ってきた。また、学校の児童・生徒が放課後利用する放課後等デイサービスとも連携した避難訓練にも参加した。 これにより、様々な立場の者が繋がり、非常時に頼りやすく、真に防災体制の強いネットワークを醸成することに繋げることができた。また、「ぼうさいこくたい」などを通じて多くの方にその知見を展開することが出来た。その一方で、民間の福祉避難所開設に向けた課題も浮き彫りとなり、今後さらなる検討が必要となった。

プランの「チャレンジ」の結果	本プランでのチャレンジは、①調布を中心とした地域において、異なる立場の者がそれぞれの立場を活かして、持続可能でありながら、現実的かつ合理的な防災体制の構築すること、②東京都立調布特別支援学校を中心とし、児童・生徒・教職員・近隣地域住民・周辺の教育機関や行政機関などの異なる立場を超えて、平時・非常時を問わず、良好な関係・共同体制をつくること、③非常時において要配慮者が安心かつ迅速に避難することのできる避難所が充実すること、④得られた知見を全国各地の防災等の取り組みの参考にしてもらうこと、の４つである。活動を経て、①については、学校の教員、保護者、地域住民、行政機関、福祉団体等と連携した防災体制の在り方について検討を深めることができた。②については、調布特別支援学校が実施する地域と連携した防災訓練や余暇活動に様々な立場の方が積極に参加することで、学校教職員、児童・生徒と顔の見える関係を構築することできた。③については、ちょうふ災害福祉ネットワークとの連携により放課後等デイサービスが実施する避難訓練に地域の方が参加することで、必要とする支援や福祉避難所開設に向けた課題を明らかにすることができた。④については、「ぼうさいこくたい 2024」などを通じて本取り組みを全国各地でも活かしうる知見として展開することに繋げることができた。

実践内容・方法・成果	**① 調布を中心とした地域における現実的かつ合理的な防災体制の構築** 調布特別支援学校の教員、保護者、行政機関、福祉団体、地域住民が参加する会合を 11 回（予定を含む）開催し、学校の防災体制、保護者の防災への意識、行政の防災計画、地域コミュニティにおける防災対策、福祉団体の防災対策と連携体制などについて情報を共有し、それぞれが

	必要とする支援や連携の在り方について協議した。 **② 東京都立調布特別支援学校を中心とした立場を超えた良好な関係・共同体制の構築** 地域と連携した防災訓練や余暇活動を通じて、学校と地域が結びつく体制を構築した。 10/5（土）、10/19（土）、11/2（土）軽スポーツ教室 都立学校開放事業である「軽スポーツ教室 ～ペガーボールを楽しもう～」（余暇活動）への協力。リソース・ネットのメンバーと地域住民（6 名）が受付や活動の見守りに参加。参加した児童・生徒（7 名）および保護者と地域の方が交流を深める機会となった。 10/22（火）異臭による避難訓練 隣接するマンションで異臭が発生したことを想定した避難訓練。学校の全児童・生徒、教員が参加。学校の校庭から隣の電気通信大学への避難経路にリソース・ネットのスタッフ（7 名）と近隣住民（10 名）が並び、児童・生徒の安全を見守りながら誘導。お互いに顔の見える関係を構築することに繋がった。 10/25（金）－26（土）　一泊二日宿泊防災訓練 中学 1 年生対象。リソース・ネットのメンバー（4 名）が夕飯の非常食（カレー、他）の準備に協力。例年、実施している訓練であり、リソース・ネットのメンバーと学校教員が自由に意見交換をすることができ、良好な関係・共同体制をつくることに繋がっている。 **③ 要配慮者が安心かつ迅速に避難することのできる避難所の充実** 8/22（木）ちょうふ災害福祉ネットワーク総会 民間の福祉避難所が充実することを目指しリソース・ネット委員会とちょうふ災害福祉ネットワークの間で意見交換を行った 12/2（月）放課後等デイサービスの施設長との打合せ

	民間福祉避難所の開設の可能性について、放課後等デイサービス（ちょうふの風）の施設長とリソース・ネットのメンバー（2 名）で打合せを実施。施設の場所、スタッフ数、利用者の障がい特性、完備している防災用品、普段の避難訓練や必要とする支援についてヒアリング。仮に福祉避難所となった場合の人員不足、物資の調達、情報の確保などが課題となることが明らかとなった。 12/4（水）リソース・ネット定例会での協議 リソース・ネットのメンバー17 名が出席。12/2 の施設長との打合せの報告と意見交換。放課後等デイサービスを民間福祉避難所に繋げるために、児童・生徒の心理的負担を考慮しつつ、様々な訓練を実施しながら検討を進める必要性があると判断。 1/16（木）放課後等デイサービスの避難訓練への参加 毎月実施している避難訓練にリソース・ネットのメンバー 3 名が参加。地震が発生し、隣のそば屋で火災が発生したことを想定。施設から近くの避難所（300m 先）まで利用者（児童・生徒 8 名）とスタッフ（7 名）で避難する様子を見学。スタッフの声掛け、移動の仕方など利用者がパニックにならないように適切な対応をとる事が重要であることを参加者で共有した。 **④ 得られた知見を全国各地の防災等の取り組みの参考にしてもらう** 10/19（土）-20（日）ぼうさいこくたい 2024 「知的障がい児／者を対象とした福祉避難所の開設へ向けた活動と今後について」のテーマでセッション。内容は、「東京都立調布特別支援学校のチャレンジ」、「障がい者家庭のいま」、「ちょうふ災害福祉ネットワークの取り組み」、「調布市の取り組み」の発表と質疑・討論。会場（定員 26 名）は満席であり、多くの質問やコメントを頂くとともに全国各地の方と繋がることができた。

	2025/2/3（月）災害時要配慮支援者研修会 　ぼうさいきょういくチャレンジプランで繋がった岩手県立大学防災復興支援センターからの依頼。「災害時につながる平時の防災活動と地域支援の輪づくり ～東京都調布特別支援学校とリソース・ネットの活動について～」のテーマで講演予定。

プランにおける工夫：プランを実践する上で、下記について具体的に工夫をしたことはありますか。

1．【準備段階】運営側の担当者を決める際の工夫	運営を行う各団体に窓口となる人を置いた。調布特別支援学校→校長、保護者→PTA 会長、近隣住民→近隣マンション理事長、行政→総合防災安全課課長、など。
2．【準備段階】地域のキーパーソンと連携する際の工夫	リソース・ネットの会合（定例会）に来てもらい、会合の中で直接依頼するようにした。
3．【準備段階】運営側を組織化する際の工夫	リソース・ネットに担当者を取り込み、会合やメールを通して組織化した。
4．【準備段階】対象者や対象地域の範囲を決める際の工夫	東京都立調布特別支援学校の学区域は、調布市、三鷹市、狛江市と 3 市であるが、モデルケースを作るうえで、学校が設置されている調布市に活動範囲を限定した。
5．【準備段階】準備時間を確保する際の工夫	ほぼ月 1 回の会合（定例会）を開催し、緊急の場合は臨時定例会を開催した。
6．【準備段階】活動場所を確保する際の工夫	リソース・ネットの代表を務める電気通信大学の会議室を使用した（電気通信大学と調布特別支援学校の教育連携協定により、会議室が無料で利用可能）。
7．【準備段階】活動資金を確保する際の工夫	
8．【準備段階】知識や情報を収集する際の工夫	知り合った専門家や団体に情報提供をしてもらった。
9．【準備段階】教育・訓練プログラムや教材を作成する際の	リソース・ネットに所属する各団体（学校、PTA、行政、教育委員会、福祉団体など）の取り組みを参考にした。

工夫	
10. 【実行段階】経験豊富なアドバイザーを確保する際の工夫	これまでの繋がりや、「防災教育チャレンジプラン」、「ぼうさいこくたい」による繋がりを重視した。
11. 【実行段階】地域の理解を得て関係機関と連携する際の工夫	リソース・ネットは、これまでの防災活動等を通じて行政、地域コミュニティ、教育機関等と繋がってきたので、今回の活動においても各組織と協力した。
12. 【実行段階】活動時間を確保する際の工夫	リソース・ネットの会合（定例会）で担当者を決めて各活動を実施した。
13. 【実行段階】活動経費をなるべく抑える際の工夫	会計担当を置くようにした。
14. 【実行段階】他の実践団体と交流する際の工夫	
15. 【継続段階】後任者を育成する際の工夫	リソース・ネットの活動に興味関心のある地域の方を巻き込み、様々な活動に関わる機会を設けた。
16. 【継続段階】活動で得られた知識・経験を、かたちにまとめる際の工夫	リソース・ネットの会合（定例会）の活動記録を残すようにし、いつでも記録を閲覧できるようにしている。
17. 【継続段階】活動の成果を外部に発信する際の工夫	一部、Web サイトで公開。「ぼうさいこくたい」の内容は Youtube で発信。
18. 【継続段階】活動内容を見直す際の工夫	会合（定例会）で意見交換を行いながら、活動内容の見直しを行った。

今後の活動予定・今後の展開	これまで、調布特別支援学校が主導してきた「防災教育チャレンジプラン 2012、2022、2023」に協力してきた。今年度は「リソース・ネット」と「ちょうふ災害福祉ネットワーク」の地域における 2 団体が中心となって活動してきた。今後、民間の福祉避難所の充実を目指し、リソース・ネットとちょうふ災害福祉ネットワークが連携して活動を継続するとともに本活動を全国の皆さんに発信していく予定である。

その他（ＰＲポイントなど）	リソース・ネットは、都立調布特別支援学校を中心に啓発活動、余暇活動、就労体験、防災活動、ICT 教材開発支援などを実施してきた。防災活動以外の活動でも様々な団体や地域との繋がりがあり、今回の取り組みにも多いに役立っている。